

ala クルーズ

2017

イルミネーション

第1回alaクルーズ“2017イルミネーションプロジェクト”会議が9月21日開催されました。今回のテーマは？『夢』にしましょう！中身は？貧しいシンデレラ姫が一瞬にしてきれいなドレス、馬車が登場！「できるかな？」「難しそう」など知恵を出し合いながら10月20日～11月23日

の設営までほぼ毎日製作。製作日数約20日で4～6人が携わりました。12月2日の点灯式では、可見市大森の久田結衣ちゃん・大翔ちゃんの姉弟が周



りの皆さんの「10・9・8・・・2・1・0」のカウントダウンでスイッチオン！一斉に点灯したイルミネーション。シンデレラ姫が登場！年々手が込んでくるalaクルーズのイルミネーション。スタッフからも喜びの声が上がり、満月の月夜に映えて光り輝いていました。30年2月14日まで毎夜夜空を照らしたイルミネーション、連日多くの方が楽しみましたが2月17日スタッフの手で解体撤収されました。次回の作品が今から楽しみです。



『手作りランプを作ろう』ワークショップに参加して

12月23日（土）、アーラのイルミネーション点灯に合わせて行われる恒例の「手作りランプを作ろう！」のワークショップが財団との共催により美術ロフトにて行われました。13時に10名のalaクルーズのスタッフが集合。朝礼と共に澤野氏より本日の手順等の説明があり準備開始です。14時30分から受付が始まり、今回は51名の参加でした。今年は季節柄インフルエンザ等で欠席の方が、例年になく多いようでした。まず、スタッフからタイムスケジュールや制作に関する説明等があり制作開始です。参加者は初めての方も多かったのですが、既にランプのイメージが出来ているようでスムーズに開始されました。回数を重ねる毎にレベルが高くなっていくような気がしました。LEDライトを点けるとどんな感じになるか私達スタッフも点灯式が楽しみになりました。1時間40分の制作時間もあっという間に終了。そして各作品に名札を付け乾燥。参加者には一時休憩・待機して頂き、スタッフは会場片付けをして、作品を並べるテーブル20脚を点灯式会場（芝生広場）に移動。その後参加者には制作会場に再び集合して頂き本日の点灯者の選出です。誕生日を基準にして、愛甲さくらさん(10歳)と梅田りのさん(9歳)の2名の小学生が選出されました。その後A・B二つのグループに分かれ、点灯式会場まで誘導。それぞれの作品をテーブルに設置して、いよいよアーラのイルミネーションと共に点灯です。5・4・3・・・とカウントダウンして点灯！みんなの歓声が響き渡りました。ランプの前方にはalaクルーズ制作のシンデレラ姫をモチーフにした『夢』もあります。冬の冷たい空気の中、小さな手作りランプが心暖まる光を放ち、点灯されたイルミネーションに駆け寄る子供たちの歓声と光景を今年も見守ることが出来、この一年を感謝の気持ちで締めくくることが出来ました。ワークショップに参加して下さった皆様、今年も感動をありがとうございました。(A)



フロントスタッフ研修を終えて

11月11日(土)、主劇場で開催された『仲道郁代ピアノ・リサイタル』に於きまして、フロントスタッフ研修を行いました。午前中は座学です。21名の参加者が公演時に、自分のポジションでは何をすべきか、気配を感じ気配りをし、どのように対応するかなどの確認をいたしました。午後からの研修は、19名のフロントスタッフ体制です。基本をしっかり覚え、臨機応変に対応し、常に一人ひとりが考える癖をつけ、チームワークで動いていくことなどをご指導いただきました。また



今回は、公演時のフロントスタッフリーダーの役割についても、全体を把握し、お客様の状況なども考え皆に伝えて行動するなど、改めて見直すことが出来ました。alaクルーズも開館以来フロントスタッフとして公演に携わってきました。ボランティアでできるのだろうかと私たちも不安でしたが、星乃先生によるご指導のもと、自分たちで考え、切磋琢磨しつつ今に至っています。お客様が「本当に今日の公演が良かったわ」と思っていただけのように、今後もがんばっていきたいと思っています。(K)



豊橋穂の国芸術劇場 訪問

12月3日、雲一つない素晴らしい天気でした。参加者20名、無事に集合できました。なかなか豊橋に来る機会がないので、電車から沿線の景色を楽しめました。皆さんもそれぞれ新しい発見があったと思います。穂の国という通り、この沿線には田園が広がりをみせており、人口37万の人々の生活の息吹を感じました。公演は『荒れ野』、近所の火災事故で他人の



アパートに集まった6名の夫婦や知人の奇妙な一夜を過ごす物語を観賞しました。この公演は平田満さんが主演でした。アートのスペースという220席のこじんまりした会場でしたので、舞台との距離が近く、見るものがどんどん引き込まれてゆくような感覚を感じました。主劇場は770席ですが市民に幅広く利用されているとのことでした。当日も市民の公演が行われており沢山の人が鑑賞していました。その他、創造活動室、音楽室、会議室など充実した設備になっています。ここはアールの建築設計者と同じなので、過去の劇場の良い所を検討して設計されたとのことでした。細かい所に配慮が感じられる設計が行われています。土日はほとんど活用されており、22時まで開館しているので職員も忙しいそうです。

「感動と出逢い」をテーマに多くの市民が願い求めた想いや託された希望をこの空間で結実させたいとの想いを感じます。ここは年間を通じてのボランティアの組織はなく、市民が興味を持ってもらうために公演毎に市民のサ

ポートを求めています。本日のフロントは、チケット関係で職員4名、フロント作業で派遣4名、アルバイト2名の複合体制でした。このアートのスペースは基本的には自由席ですが、チケットに番号が付いて、順番に会場に入る仕組みになっています。客席が長い形状で両端からしか席に着くことができないこともあり、市民が長い時間待つことを解消し順番に入場して混乱を防ぐ仕組みにしたそうです。東京の小さい劇場ではかなり実施されているそうです。夕方5時32分の電車で慌ただしく、帰宅の途に付きました。(S)



東京視察研修

12月15日、今回で2回目となる東京視察研修にalaクルーズより加藤、三島、久米の3名が参加しました。東京での最初の行き先は信濃町・文学座アトリエでした。1953年に出来た歴史ある建物で文学座の稽古場として使われている所です。そこで『鳩に水をやる』という演劇を鑑賞しましたが、三つの時代の話がからんでの内容は理解するのが難しいものでした。次に新国立劇場を見学しました。オペラ劇場は主舞台の奥と左右に同じ大きさの舞台がある四面舞台の劇場で1814席の客席を持っています。ホワイトオークで仕上げられた内装により歌手の肉声が理想的に響く設計になっています。ホワイトオークの無垢材で作られた客席はなんと1席100万円ということです。小劇場(320~450席)は客席のアレンジでエンドステージ・センターステージ・アリーナステージと形状が変化し自在な空間を作ることができます。その他に使用中で見られなかったですが1030席収容の中劇場があります。コンクリート打ち放し(はつり仕上げ)の壁と大理石の床が美しいエントランスホール等は非日常的な夢のような空間を作っています。首都高速・甲州街道からの騒音を厚さ1mの壁を二重に配置することにより防止したり、地下鉄の騒音をオペラ劇場前の池に水を張ることにより緩和するような工夫がなされています。翌日はサントリーホールでプロのフロント業務を見学させていただきました。フロント30名体制ということで、もぎり・遅れ客等余裕を持った対応をされている印象を受けました。柔らかい物腰と丁寧な受け答えはサントリーのサービスの流れを汲むものでしょう。サントリーホールは日本初のコンサート専用ホールとしてヴィンヤード(ぶどう畑)形式の客席(2006席)を配置し、臨場感あふれる音響を実現しています。5898本のパイプを使ったパイプオルガンは圧巻でした。最後に新日本フィルのホームグラウンドとなっている、すみだトリフォニーホールへ行



きました。私たちだけのためにバックステージツアーを行っていただき、舞台上のコントラバスの先で突いた穴や管楽器の湿気による床の汚れ等を説明してもらいました。また楽器用、ピアノ用の迫り等は新日フィルの意見が反映されているということでした。年間150日をコンサートや練習で使用しているからこそでしょう。今回の東京研修では劇場の裏側を見学することが出来て興味が持て、また、プロのフロント業務を見て大変勉強になりました。今後のアークでのフロント業務に生かせればと思います。(K)

12月15日 (金)

13:20 文学座アトリエ 到着
13:30 「鳩に水をやる」 開場
14:00 開演 休憩なしの2時間10分 観劇
17:00 新国立劇場にて施設見学

12月16日 (土)

10:00 サントリーホール 到着
11:00 「こども定期演奏会」 パイプオルガン 観賞
11:45 サントリーホール 出発
13:30 すみだトリフォニーホール到着
14:00 新日本フィルハーモニー交響楽団 「第九」 観賞
15:30 終演後施設見学

世界劇場会議国際フォーラム2018 in 可児

テーマ 「劇場は社会に何ができるか、社会は劇場に何を求めているかⅢ」

「世界劇場会議国際フォーラム2018 in 可児」が2月8日(木)~9日(金)開催され120名の参加者がありました。alaクルーズは、フロントスタッフとして参加で、小劇場での場内案内・扉開閉・クローク係・弁当受付配布係等お手伝いしました。8日は8名、9日は11名です。参加者の方々も毎年来館されている方が多く見受けられました。場内では、同時通訳を聴



きながら、質疑応答の際、マイクを届ける係が待機していました。8日の施設見学ツアーの引率、レセプションでは、クローク係をしました。また、終了後お忘れ物がないか、入念に場内のチェックもしました。毎年同じような手伝いですが、参加されたお客様が気持ちよくお帰りいただけるよう、フロントスタッフとして参加しました。(K)



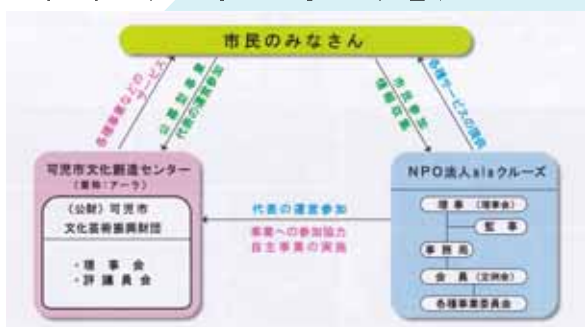
戻る

只今 ala クルーズ会員募集中

『NPO法人alaクルーズ』は、自主運営するボランティア組織として、各種事業や活動を展開するとともに、(公財) 可児市文化芸術振興財団(以下財団という)が行う諸事業と連携し、市民の文化振興に対する意識の高揚を促すとともに、会員個々が自己実現と生きがいを得ることにより、市民の文化・芸術の創造に寄与することを目的として活動を行います。

ala クルーズの活動

- ・各種文化・芸術に関する事業の主催及び共催
- ・アールで開催される財団事業などのサポート
- ・会員の知識や技術を向上させるための講座及び研修会の開催
- ・市民に開かれた会であるための各種情報の発信及び収集
- ・あらゆる市民が参加できる文化活動



お知らせ

皆さん、もうお済みですか
alaクルーズ会員更新受付中

平成30年度alaクルーズ総会のお知らせ

平成30年5月20日11時(受付10時30分)より
ワークショップルーム洋室にて開催予定しております。



編集後記

2018年2月9日～25日まで、韓国ピョンチャンで冬季オリンピックが開催されました。今季日本では、山形県で積雪412cm、福井県では1500台もの車が立ち往生するなど大荒れでしたが、冬季オリンピック会場も極寒でした。最低気温はマイナス21度、体感温度はマイナス31度と報道されていました。そんな中、日本は金4・銀5・銅4と冬季オリンピック最多の13のメダルが選手の胸に輝きました。死にもの狂いで猛特訓したであろうに、悪天候に阻まれ悔し涙を流した選手。テレビを見ていて胸が熱くなりました。一つモヤモヤするのは、あまりにも政治的関与があり過ぎたことでしょうか?何はともあれ選手の皆さん『お疲れ様でした』元気をありがとう。(H) * *

alaクルーズ事務局 TEL/FAX : 0574-61-3414
<http://www.kpac.or.jp/ala-crews/>
Mail : ala-crews@kpac.or.jp

alaクルーズ

戻る